

令和4年度 岡山県学力・学習状況調査結果の概要

I 調査の実施状況

(1) 調査の目的

個々の児童生徒の学力・学習状況を全国比較及び経年比較することにより、教育指導や教育施策の改善を図る。

(2) 調査実施日

令和4年4月19日（火）

(3) 受検者数・受検校数・実施教科等

※質問紙は県独自調査

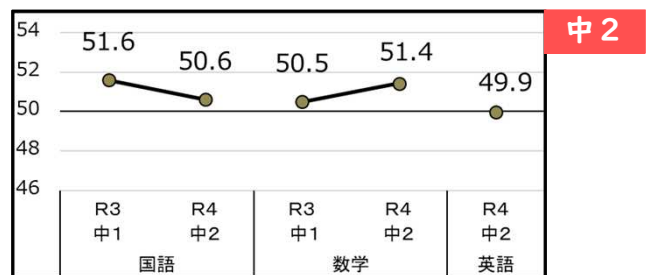
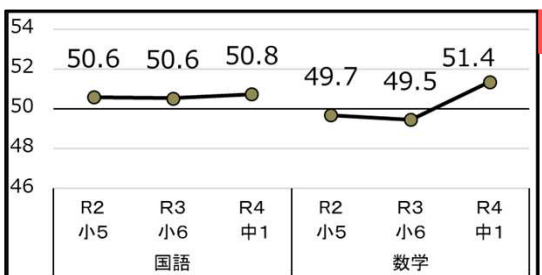
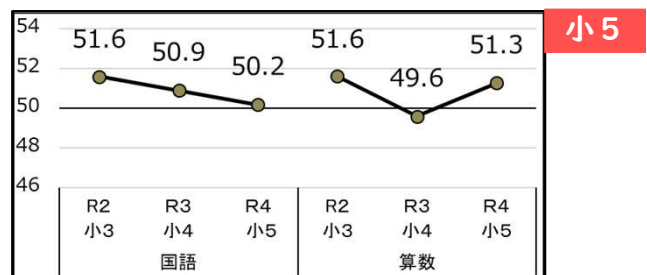
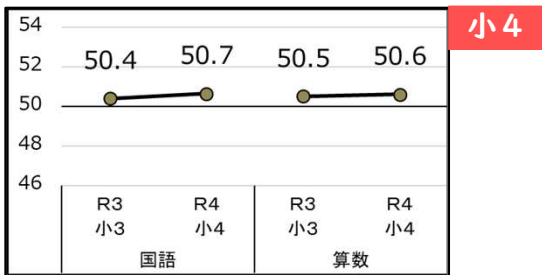
	県受検者数 (受検校数)	全国受検者数	実施教科等
小学校第3学年	8,993人 (286校)	約 8万人	国語 算数
小学校第4学年	9,182人 (279校)	約11万人	国語 算数
小学校第5学年	9,197人 (282校)	約12万人	国語 算数 質問紙
中学校第1学年	9,465人 (115校)	約 9万人	国語 数学 質問紙
中学校第2学年	9,193人 (116校)	約11万人	国語 数学 英語 質問紙

2 学力調査の結果

【標準スコア】 全国の平均正答率を50（全国値）としたときの換算値

	国語					算数・数学					英語
	小学校			中学校		小学校			中学校		中学校
	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	2年
R2	51.6	51.8	50.6	52.0	50.1	51.6	50.1	49.7	50.2	51.1	50.5
R3	50.4	50.9	50.8	51.6	51.5	50.5	49.6	49.9	50.5	50.9	51.1
R4	50.8	50.7	50.2	50.8	50.6	50.6	50.6	51.3	51.4	51.4	49.9

【同一集団における標準スコアの推移】



- ・小学校は、全ての教科、学年で全国値を上回った。同一集団における標準スコアの推移は、5年生の国語を除いて上昇している。
- ・中学校は、2年生の英語を除いて、全国値を上回った。同一集団における標準スコアの推移は、2年生の国語を除いて上昇している。

3 学習状況（質問紙）調査の結果（岡山県独自の調査のため、全国平均との比較はない。）

※各質問項目は、質問紙調査の質問文をそのまま用いている。

【授業改善】

① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
(主体的な学び)

② 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う。
(対話的で深い学び)

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

	小5	中1	中2
R2	74.9	78.8	74.9
R3	75.4	81.1	78.7
R4	75.3	79.3	75.5

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

	小5	中1	中2
R2	78.5	81.0	74.6
R3	78.8	85.6	81.9
R4	78.2	85.1	82.8

・①②共に、肯定的回答割合は、R3年度と比較してほぼ横ばいである。

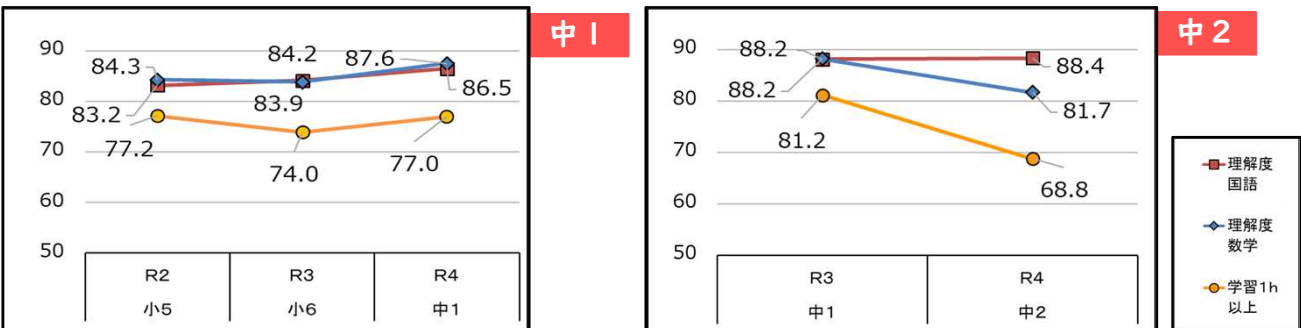
【授業理解・学習習慣】

- ③ 国語の授業の内容はよく分かる。(理解度 国語)
- ④ 算数(数学)の授業の内容はよく分かる。(理解度 算数・数学)
- ⑤ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていましたか。(学習1h以上)

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

	小5			中1			中2		
	理解度 国語	理解度 算数	学習1h 以上	理解度 国語	理解度 数学	学習1h 以上	理解度 国語	理解度 数学	学習1h 以上
R2	84.3	83.2	77.2	84.9	84.4	81.6	84.3	79.9	73.6
R3	84.9	84.5	73.6	88.2	88.2	81.2	86.5	82.0	73.2
R4	84.9	84.4	65.9	87.6	86.5	77.0	88.4	81.7	68.8

《同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕》



※中2のグラフのR2は、全国学力・学習状況調査を実施しなかったため、データがない。

- ・「理解度」の肯定的回答割合は、R3年度と比較してほぼ横ばいである。同一集団における肯定的回答割合の推移は、中2の数学を除いて上昇している。
- ・「学習1h以上」の肯定的回答割合は、R3年度と比較して全ての学年で減少している。同一集団における肯定的回答割合の推移は、中1は上昇しているが、中2は下降している。

【ICT機器の活用】

- ⑥ 授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

《年度ごとの「ほぼ毎日」と回答した割合〔単位：％〕》

	小5	中1	中2
R3	19.3	12.1	16.8
R4	54.1	66.6	50.3

- ⑦ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。

《「1時間以上」と回答した割合〔単位：％〕》

	小5	中1	中2
R4	36.9	39.6	33.9

- ⑥の「ほぼ毎日」と回答した割合は、R3年度と比較して全ての学年で大幅に増加しており、授業でのICT機器の使用が進んでいる。
- ⑦について、3～4割の児童生徒が、普段1日当たり1時間以上、勉強のためにICT機器を使っている。

【夢育】

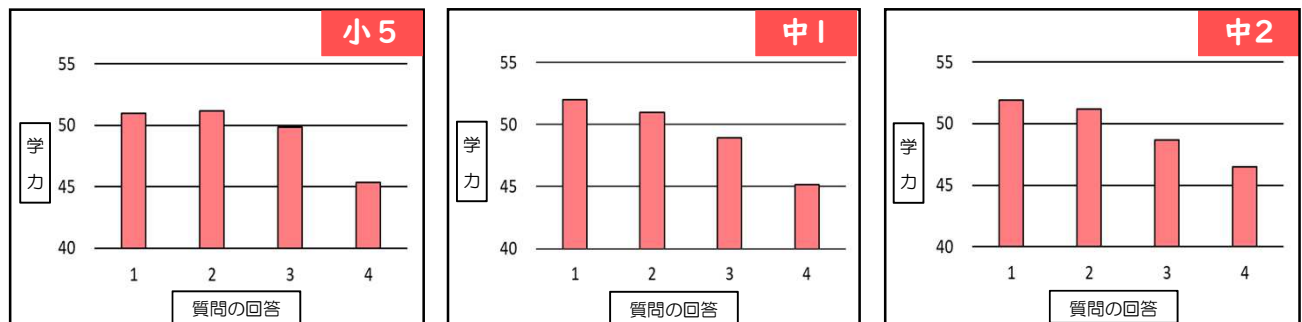
- ⑧ 将来の夢や目標を持っている。（夢・目標）
 ⑨ 自分には、よいところがあると思う。（自己肯定感）
 ⑩ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。（自分と向き合う力等）

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》 ※1 「夢・目標」の質問は、「1：当てはまる」と回答した児童生徒の割合
 ※2 「—」は、質問項目がなかったため、データがない。

	小5			中1			中2		
	夢・目標 ※1	自己 肯定感	自分と向き 合う力等 ※2	夢・目標 ※1	自己 肯定感	自分と向き 合う力等 ※2	夢・目標 ※1	自己 肯定感	自分と向き 合う力等 ※2
R2	66.1	79.0	—	52.0	76.2	—	41.3	74.8	—
R3	70.1	79.6	—	57.8	77.6	—	44.3	74.8	—
R4	69.7	80.8	83.3	60.0	79.8	87.3	43.5	74.8	84.9

《⑩の回答と学力のクロス分析》

※クロス分析で用いる学力の数値は、各児童生徒の国語と算数・数学の標準スコアの平均値を用いている。



[1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない]

- 「夢・目標」の「1：当てはまる」と回答した割合は、R3年度と比較して中1は増加しており、小5、中2はほぼ横ばいである。
- 「自己肯定感」の肯定的回答割合は、R3年度と比較して小5、中1が増加している。
- ⑩の回答と学力のクロス分析では、肯定的に回答した児童生徒ほど標準スコアが高い傾向が見られる。

今後の取組

県教委の取組

【管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問】

- ・県幹部等が指導主事と共に県内全ての公立小・中学校（岡山市立を除く）を年複数回訪問し、「学校経営アクションプラン」に基づき、学力向上をはじめとする学校が抱える課題の解決や特色ある学校づくりに向けた取組について管理職と面談・協議を行い、管理職のビジョンと戦略を支援することで、学校の取組を一步先に進める。
- ・学校訪問時の授業参観を踏まえ、今後の授業改善の方向性について管理職と共通理解を図るとともに、改善の進捗状況を確認する。

【学ぶ意欲の向上・授業改善の推進】

- ・県内に配置している授業改革推進リーダー・推進員を核として、校内指導体制の充実と授業改善に向けた対話のある学校風土を醸成するとともに、市町村教育委員会と連携・協働しながら教員の授業力向上や学校の学力向上の取組を支援する。
- ・自己決定の場のある課題解決型学習（PBL）の積極的な実施を働き掛け、各教科等での学習において児童生徒が学ぶ意義を実感できるよう、学びの原動力となる「夢育」を推進する。
- ・「学力向上担当者通信」、「県外レポート通信」を発行し、児童生徒が主役となる授業づくりに向けて、学校で取り組むべきポイントや他県等の好事例を紹介する。
- ・授業と家庭学習をつなぐサイクル（C）とフィードバック（F）の徹底と、一人一台端末を効果的に活用した学びの推進により、児童生徒が確実に力を付けられる取組を支援する。

【個に応じた指導の充実】

- ・「学力定着状況確認テスト」、「中間期学習状況調査」を実施することで、各学校における児童生徒のつまずきや学習状況を年度途中に把握し、改善に向けた取組の推進を図る。
- ・「ふりかえりプリント集」や、個のつまずきに応じたプリントを作成できる「Web 評価支援システム」等を学校に提供し、積極的な活用を促す。
- ・「主体的な学びの基盤づくり事業」により支援員を配置することで、各学校が実施する補足的な学習指導を支援する。

各学校の取組

各校において、各種結果から把握した実態を基に、学校や学級、児童生徒個人の成果と課題を明確にし、次のような学力向上に向けた取組を、市町村教育委員会と連携しながら進めていく。

【学ぶ意欲の向上・授業改善の推進】

- ・「岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善、『一歩先へ!』」に基づき、単元を見通した評価規準、学習課題等の計画を立て、児童生徒が主役となる授業づくりを進める。
- ・各教科等での学習において、児童生徒が課題を自分事として捉え、他者と協働しながら課題解決を図るような探究的な学習の実践に取り組む。具体的には、児童生徒が自分で決めたことをやり遂げられるような学習活動を設定し、自己の変容を実感できるよう振り返りを充実させることにより、児童生徒の自己肯定感を高め、主体的に学ぶ力を育成する。
- ・一人一台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの場を研究・実践し、更なる授業改善を進める。
- ・「家庭学習のスタンダード」、「家庭学習のスタンダード増補版」に基づき、児童生徒自身が課題意識を持って学習に取り組めるよう、授業とつながった家庭学習を工夫する。

【個に応じた指導の充実】

- ・個に応じたプリントや一人一台端末を活用した補足的な学習指導を行い、児童生徒一人一人のつまずきを解消し、学力の定着を図る。